

不登校を問い直す～通いたくなる魅力ある学校づくり～

9月も半ばを迎え、夏休みが明けて2週間ほどが経ちました。子どもたちは、学校生活のリズムを取り戻してきた一方で、疲れが見え始めたり、友達との関係や学習面でのつまずきが表れたりする時期でもあります。何気ない表情や会話、友達との関わり、授業中の姿など、日々の学校生活に見られる小さな変化を大切にしたいものです。

また、「なぜ学校に来られなくなったのか」だけでなく、「**なぜ学校に来るのか**」という視点から考えてみることも大切です。「授業が楽しいから」「友達がいるから」「先生と話したいから」など、子どもが学校に来る理由はさまざまです。

学級や学校の魅力を見直し、高めていくことは、不登校の未然防止にもつながります。授業、学級活動、友達との関わり、先生との関係、安心して過ごせる居場所など、日常の学校生活の中に「学校に来る理由」があります。

今号では、一人の子どもの姿を通して、子どもたちの「学校に来る理由」を一緒に考えてみましょう。



事例：『やってみたい』を真ん中に

この学校では、子ども一人一人の思いや願いを大切に、「やってみたい」という気持ちを学びにつなげる PBL 活動に取り組んでいます。学年の枠を越えたプロジェクトでは、子どもたちが興味や関心をもとにテーマを決め、仲間や教師と相談しながら活動を進めています。

ある児童は、2学期当初、欠席が続いていました。しかし、プロジェクトの中で自分の「やりたい」を見つけ、仲間とともに活動する中で、いきいきとした姿が見られるようになりました。「自分の仕事があるから」と話し、プロジェクトのある日には、活動を楽しみに、わくわくした様子で登校する姿が見られました。自分の役割や楽しみにしている活動が、学校に来る理由となっていました。

その後も少しずつ欠席が減り、3学期には教室で過ごす時間も増えました。

校長先生に聞いてみました

Q:この子が学校に来れた理由は?

A:きっと、PBL の時間だけでなく、先生方や友達、お家の方との関わりがあったからだと思います。その上で、やっぱり「自分のしたいことができること」は大きかったのではないのでしょうか。「やってみたい」「自分の役割がある」という経験から、「できることはやってみよう!」という気持ちにつながったのだと思います。

Q:先生方が大切にしていることは?

A:子どものニーズに徹底的に寄り添うことです。決して否定せず、まずは子どもの思いや願いを受け止める。そして、「ゴールは何か?」と目的を問い返ししながら、子ども自身が考え、活動できるようにしています。

Q:これから大切にしたいことは?

A:よく、「山に登るには、いろんな道がある」と言います。でも私たちは、「その山は本当に子どもが登りたい山なのか」と問いかけます。いろいろな道を用意することももちろん大切ですが、まずは「子どもがしたいことなのか」ということを、私たち自身が考えていきたいです。

Mini 研修

振り返ってみましょう。

- ・自校の子どもたちは、何を楽しみに学校に来ているでしょう?
- ・今ある取組の中で、子どもの「行ってみよう」につながっているものは何でしょう?
- ・その取組によって、子どもの姿にどんな変化が見られているでしょう?



通いたくなる魅力ある学校作りは、子どもを真ん中にして、先生と子どもと一緒につくっていくことが大切です。



岡山型長期欠席・不登校対策スタンダードα
https://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/1027539_9942870_misc.pdf

